

第3期第2回川崎市多文化共生社会推進協議会 会議録（摘録）

会議名		第3期第2回川崎市多文化共生社会推進協議会
日 時		令和6（2024）年7月30日（火） 10時00分～12時00分
場 所		川崎市役所本庁舎3階304会議室
出席した者の氏名	委 員	(1) 大西 楠 テア 委員 (2) 小ヶ谷 千穂 委員 (3) 南 昭子 委員 (4) 孔 敏淑 委員 (5) 本田 量久 委員
	事務局	市民文化局市民生活部多文化共生推進課 (1) 菅原課長 (2) 吉留担当課長 (3) 三田村課長補佐 (4) 松長根課長補佐 (5) 緒方職員 (6) 高橋専門調査員
欠席した者の氏名		
議 事 及 び 公 開・非公開 の別	議題（公開） 1 開会（公開） 2 本日の日程、資料確認（公開） 3 指針に基づく施策の実施状況について（公開） 4 個別課題の検証：かわさき多文化共生プラザ（公開） 5 次回以降の審議について（公開） 6 その他（公開） 7 閉会（公開）	
傍 聴 者		0名
配布資料		・座席表 ・委員名簿 ・資料1 川崎市多文化共生社会推進指針に基づく施策の実施状況 (2023（令和5）年度及び推進計画一覧（2024（令和6）年度）) ・資料2 外国人相談支援体制の充実に向けた新たな拠点 「かわさき多文化共生プラザ」について ・資料3 川崎市多文化共生社会推進協議会（第3期）審議計画（案） ・資料4 川崎市多文化共生社会推進協議会 令和6年度第1回地域日本語教育の推進に関する部会 ・第3期第1回川崎市多文化共生社会推進協議会会議録 ・川崎市多文化共生社会推進指針 新旧対照表

1 開会

○菅原課長（会議の成立、会議の公開について説明）

2 本日の日程、資料確認

○三田村課長補佐（日程説明、資料確認）

- 菅原課長 今回から国際交流協会の常務理事が交代し、北沢委員に代わり南委員が本協議会委員となったので、委嘱状をお渡しする（委嘱状の交付）。一言ご挨拶をお願いします。
- 南委員 前職は宮前区長で、区役所の経験が多くあるので、区の窓口のことなどをお話できるかと思う。皆様からいろいろなお話を伺えることを楽しみにしているので、よろしくお願いします。

3 指針に基づく施策の実施状況について

- 小ヶ谷会長 指針に基づく施策の実施状況について、事務局から説明をお願いします。
- 三田村課長補佐 （資料1に基づき説明）
- 小ヶ谷会長 何か質問はないか。
- 大西委員 図書館で電子書籍を導入するのはよいと思う。電子書籍だと外国人市民だけではなく、読み上げに対応していて目が不自由な人も読めたりする。差別や排除のないバリアフリーの施策だと思った。
- 本田委員 まだそこまで数は多くないのではないか。
- 小ヶ谷会長 小説などは読み上げソフトも増えている印象はある。最近は学術関係の書籍も電子化が進んでいる。個人用だけでなく、図書館用には増えているのではないか。
- 大西委員 子どもの日本語教育需要が高い印象があるので、子どもの向けの本がもっと電子書籍化して読み上げなどができるといい。ICTを活用した学習環境の整備が指針にも位置付けられているので、図書館と連携するといいのではないか。
- 小ヶ谷会長 小学生は授業でタブレットを使っており、日本語が母語ではない子にとってはそれで自動翻訳にかけたり、平仮名を漢字に変換したできるようになって、活用できる場面も増えている。かながわ国際交流財団のあーすプラザや、鶴見区の図書館でも多言語の絵本などを収集していたと思う。多言語よみきかせもやっていたと思う。そうしたところと情報交換ができたらいいかもしれない。
- 本田委員 あーすプラザ（神奈川県立地球市民かながわプラザ）は横浜市の図書館と連携している取り組みでいた。
- 小ヶ谷会長 ほかに何かあるか。
- 本田委員 子どもの教育では学校との連携があると思うが、外国人が働いている企業の連携はどうなっているか。悩みがあったときに相談できる相手がいるのは職場だと思う。生活の拠点は、家族、コミュニティ、そして働く場だと思う。
- 小ヶ谷会長 今回の指針に基づく施策の実施状況報告では、労働環境となると所管はどこか。
- 三田村課長補佐 経済労働局が事業者に対し「かわさき労働情報」という情報誌の中で外国人労働者に対する適正な雇用や労働の確保等の周知などを行っているが、多文化共生に向けた労働者の生活相談といったことまでは報告書には上がってきていない。
- 大西委員 働く場における日本語学習については前期協議会でも、企業に関わってもらえないかという問題は提起されていたかと思う。研修の場や、やさしい日本語の活用なども求められていた。職場の雰囲気が良ければ相談がしやすいが、職場の皆さんで仲良くしてください、そうした環境を作ってくださいとは言えないのではないか。
- 小ヶ谷会長 どこまで求めているか、線引きが難しい。やさしい日本語の研修を事業者が行うようなプログラムがあれば、そういうところから職場の雰囲気の醸成などがあればよい。
- 孔委員 技能実習生の場合、自らで動くことは難しい。会社のコーディネーターが全部間に入ってやってくれるが、休みの日に個人で日本語を勉強したくてもできなかったという話を聞

いたことがある。企業にどこまで受け止めてもらえるのかは難しい。

○小ヶ谷会長 技能実習生の場合、監理団体などが関わってくる。外国人と言っても様々で、格差が表れているという論点もあった。ほかにあるか。

○大西委員 119 番通報に通訳サービスが利用できるとのことだが、通訳は 24 時間常駐しているのか。

○三田村課長補佐 市役所に常駐しているのではなく、委託業者が設置しているものになる。

○小ヶ谷会長 熱中症なども増えているので、救急の通訳サービスは重要だと思う。学校への通訳派遣の増加や救急の通訳サービスの増加、更に先ほどの報告によれば市で作成した外国人市民のための主な行政サービスの窓口と問合せ先一覧である「川崎市に住む外国人の皆さんへ」の配布数が増えているということだった。このように、多言語サービスの件数が増加しているのは、外国人市民の増加と併せて、こうしたサービスの定着という点の両方があって、件数が増えているのではないかと。単に外国人市民の増加だけではないように思う。

○南委員 幸区役所で、4か国語のコミュニケーションボードを作成・設置したという報告があった。これは、区役所に手続に来た方に、絵のようなものを見せて、指差しでこれですかというようにやり取りできるツールで、幸区では声を出せない障害をお持ちの方とのやり取りのために作ったという経緯があったかと思う。大西委員が指摘されたように、バリアフリーの観点で、障害の方に対しても、日本語のできない方に対しても活用できるものは様々な施策の中にもあるのではないかと。

○高橋専門調査員 4か国語のコミュニケーションボードの作成に当たっては当課に相談があり、参考になるものを紹介した。

○大西委員 保育園や介護など、福祉の分野で言語や生活習慣の違いに配慮し、対応をしているとの報告があり、通訳派遣などの予算措置ではなくても、行政職員の普段の対応の中にそうした視点があるということは周知徹底してきているのだなと感じた。

○小ヶ谷会長 確かに、今回の報告では全体として定着してきているという印象を受けた。それから、厚生労働省の外国人患者受入れ医療機関認証制度（JMIP）を川崎病院が取得したという報告があった。この認証制度は新しい制度なのか。

○高橋専門調査員 認証制度自体は平成 23 年からある。

○大西委員 外国人観光客が増加しており、制度を整えなければならない段階に来ていると感じる。二国間協定などによって、日本の医師免許がない外国籍の医師が診療できるという制度もあり、外国人を専門に診るという制度ができつつあるのかと感じた。

○小ヶ谷会長 ほかに何かあるか。

(なし)

4 個別課題の検証：かわさき多文化共生プラザ

○小ヶ谷会長 先ほど視察したかわさき多文化共生プラザについて、改めて事務局から説明をお願いする。

○吉留担当課長 (資料 2 に基づき説明)

○小ヶ谷会長 何か質問はあるか。

○孔委員 多文化共生プラザと国際交流センターとの違いがわかりにくい。プラザならではの特色を作り出してほしい。また、国際交流センターと連携し、新しい取組が出てくるとよい。立地もよく、6 言語のスタッフがいたので、それぞれがアイデアを出して、何か企画ができれば、スタッフのモチベーションも向上する。外部の人にイベントを委託して、スタッフ

はカウンターの内側にとどまるだけになってしまわず、スタッフが活躍できる場になるとよい。

- 小ヶ谷会長　　これまで川崎市の南部に拠点がなかったところに新しくできたというところが重要で、国際交流センターの役割とも重なる部分はあると思う。
- 南委員　　国際交流センターと多文化共生プラザは、違いの前にまずどちらも最低限備えていなければならない機能があるのかどうか、現在は確認するすべがない。そして互いに最大公約数のように、いいことは両方とも取り入れ、更に独自の事業に力を入れる、そして互いに高めあっていくという連携をしていきたい。また、センターとプラザの違いは、今後問われていくと思うので、きちんとしていきたい。
- 小ヶ谷会長　　孔委員のプラザのスタッフが企画をしていくという提案はよいと思った。本日視察してみて、情報提供のスペースという印象が強く、当初聞いていた計画からはもっと自由に使えるスペースがあるのかと想像していたのだが、今後さらに間取りの変更などはあるのか。
- 吉留担当課長　　例えば、展示スペースも、自国のものを紹介したいという相談員のアイデアで展示している。このスペースは、時期によって内容を変え、例えば学校の始まる時期には学校で必要なものを紹介したいといった企画も相談員から出されている。そうした相談員の異なる視点からのアイデアを活かして展示していきたい。
- 小ヶ谷会長　　フリースペースのような場所はあるのか。先ほど見せてもらった飲み物を飲めるスペースがそうか。
- 吉留担当課長　　今後はあのスペースを使ってミニイベントなどを実施したり、集まれる場所としてできるだけ開放して市民に使ってもらいたい。
- 高橋専門調査員　イベントを行うには狭いスペースだが、例えば先週末に行った外国につながる子どものための宿題教室のように、イベントは広い本庁舎の会議室で実施し、その時に第3庁舎のプラザも紹介して知ってもらうというようなことも可能かと思う。
- 本田委員　　プラザは SNS を活用しているのか。多文化共生推進課の SNS は結構更新されている。また、国際交流センターも Facebook でいろいろ情報を出している。外国人の場合、情報はスマートフォンから取得することが多いと思う。情報行動は世代によっても Facebook だったり、インスタグラムだったりとは異なっている。
- 小ヶ谷会長　　プラザは、これから SNS の独自アカウントを作るのか
- 吉留担当課長　　多文化共生推進課の SNS を使っている。
- 本田委員　　情報は、発信するだけではなく、フォローなどでも拡散する。情報の拡散を考えると、外国人の方の力を借りるということもある。外国人市民が Facebook やインスタグラムをフォローしたり、投稿することで情報拡散していくという可能性もある。
- 小ヶ谷会長　　いわゆる「映える」ようなことか。イベントをするときには効果的だと思う。
- 本田委員　　紙媒体の文字情報も重要だが、写真を撮ってそれだけで楽しそうなことが伝わることはあり得る。
- 高橋専門調査員　そのためには、個別のアカウントがあったほうがいいのか。
- 小ヶ谷会長　　そうでもない。複数のアカウントを持つより、インスタグラムのストーリーのような、1 日すると消えるものを連続して出すなど、常に動いているということが SNS では重要。
- 高橋専門調査員　多文化共生推進課の SNS は、内部で決裁を取って発信する。役所としては、なかなかタイムリーに上げられないところが悩ましい。
- 小ヶ谷会長　　インスタグラムのストーリーを上げるのは、何かイベントがあるというときだけではなく、日常のこと、例えば「今日は何時から何時まで開いています」のようなことを毎日少

しずつ違う雰囲気で上げて流すのは効果があるようだ。そうしたことでいいのかもしれない。

○本田委員 多文化共生推進課の Facebook は市民も投稿できるのか。

○小ヶ谷会長 市民もコメントはできるのか。

○高橋専門調査員 市民の方は当課の投稿をシェアしたり、コメントはできるが、投稿はできない。また多文化共生推進課はそれに対して返してはいない。

○本田委員 情報発信は発信と共にレスポンスが重要。それで、拡散されていく。観光振興に取り組む地方自治体や観光協会などは、発信はするがレスポンスがないことが多い。だからいかに観光客がコメントを書いたり写真を投稿するかが重要になる。

○大西委員 反応するのは、市としての意思表示になってしまうので、難しいのではないかと。例えば、「多文化共生について皆さん何か投稿してください」という発信であれば、内部決裁が取れるのか。でも、そこに不特定の発言が数多く来ると、市としては対応が難しいのかもしれない。

○本田委員 確かに、そうした場合に対応しきれないのかもしれない。

○小ヶ谷会長 しかし、相談ニーズのある人に届くということが一番大切。対面のなかった先行実施の時期も含め、プラザの相談件数はそれなりにある。

○菅原課長 ロコミで広がっている感じがする。私が川崎区役所勤務だった時に、区役所総合案内が多言語化された。その時も、開始するまではどれほど利用されるのだろうかと言われていたが、多言語対応の人を配置したらだんだんロコミで利用が広がっていった。やはりロコミが広がると数が増えていく。加えてご指摘の通り SNS での拡散や PR も併せていくことも必要なのかもしれない。プラザのオープンの際には、TVK（テレビ神奈川）が取材に来庁し、プラザの様子を撮影して放映していた。こうした動画があると、プラザの雰囲気も伝わる。動画を Facebook などに載せれば、室内と相談員の様子もイメージしやすい。役所としての制限もあるが、相談員の中には SNS に詳しい人もいるので、そうした人からのアイデアも活かしながらやっていきたい。

○小ヶ谷会長 インスタグラムは、そんなに難しいものでなく、展示物を作って何度も使える。同じものをリポートしてもいい。そこにリンクされる QR コードなどもあればすぐに該当のホームページにつながるのよい。新しくできた施設なので、新しいツールをやってみるのもいいと思う。

○大西委員 孔委員は以前から、昔は区役所に外国人登録窓口があったときは、窓口の職員がいて。なんでも尋ねられて良かったと指摘していた。今回のプラザは、そのような機能を担っているのか。

○孔委員 区役所は外国人が必ず行くところで、その際、自分ではどんな問題を抱えているのかわからない人も行ったついでに世間話をして、何かわかったりする。プラザでも同じ国の相談員と話をし、いろいろ聞けるのでいいと思う。これで国際交流センターと多文化共生プラザ、そして川崎区役所と 3 つの相談窓口ができた。

○菅原課長 川崎区役所は、総合窓口を多言語化しているので、相談が主ではないが、一部にそのような機能もある。また、プラザと距離が近いので当然連携していく。

○孔委員 世代も変わってきたため、若い世代は、情報はすべてスマホで収集する。それでもこうした窓口も必要なので、期待したい。

○南委員 国際交流センターの相談担当と話していたら、今は大概のことがスマホで解決できるようになり、それなのに国際交流センターで相談に訪れる人はもっと深い内容の相談がある

ことが多くなっていると言っていた。

- 孔委員 情報が無いというより、求めているのは単なる情報ではないこともある。
- 小ヶ谷委員 多文化共生プラザの計画時に相談員に会いに、ちょっと立ち寄るといような機能が必要だという話があった。
- 菅原課長 敷居の低い立ち寄りやすい居場所というのがプラザの狙いの1つである。
- 孔委員 川崎に来たついでにちょっと寄ってみよう、話してみようという雰囲気の場合があればいい。先日、外国人市民代表者会議の同窓会がありその際に、一緒のグループになった人に多文化共生プラザができたことを話したら、麻生区に住んでいる代表者から、新百合ヶ丘にも作ってほしいと言われた。北部の外国人市民も忘れないでほしいと言っていた。まずは、北部の市民館などでグループを作って集まってみてはどうかと伝えた。
- 本田委員 多文化共生プラザを利用した人は、プラザをどうやって知ったのか。自分で情報を探したのか、誰かが教えてくれたのか。
- 孔委員 ロコミが多い。プラザができる前から、私の周りではもうすぐできそうだという話が出ていた。このプラザのようなものが欲しいというのは、代表者会議から話が出ている。
- 小ヶ谷会長 こうしたロコミは重要である。
- 本田委員 インフルエンサーになる人も重要。
- 小ヶ谷会長 代表者会議の委員など。
- 本田委員 そうしたキーパーソンが情報を拡散する。
- 小ヶ谷会長 では、ここまでで多文化共生プラザについての検証は終了する。

5 次回以降の審議について

- 小ヶ谷会長 次回以降の審議について、事務局から説明をお願いします。
- 三田村課長補佐 (資料3 川崎市多文化共生社会推進協議会(第3期)審議計画(案)について説明)
- 小ヶ谷会長 では、次回以降の審議のため、いくつかテーマを挙げ、協議会の日程が決まっているので、いつにどこの所管課を呼ぶかは事務局で調整することになる。どのようなテーマでヒアリングをしたいのかについて、委員から意見をいただきたい。
- 大西委員 高齢者の介護など福祉に関する相談体制に関心がある。外国人の高齢化の状況も知りたい。一人なのか、夫婦で老々介護なのか、どんな形で支援を受けたり、行政につながっていくのかということに関心がある。もう一つは病院の話で、観光で来た外国人の医療について。医療費の未払いがあると世間の反発も大きいがどうなのか。また外国人はどのような医療を受けているのか、実態を知りたい。以上、高齢者の福祉と病院関係についてが私の関心事項である。
- 小ヶ谷会長 川崎は新しい外国人も増えているが、在日コリアンの方もいて高齢者も増えていると思うので、重要な議題だ。それと病院の医療現場の状況ということになるか。医療については、厚生労働省の認証制度取得の件など、病院局の対応になるか。
- 三田村課長補佐 医療現場の人はヒアリングに来れないかもしれないが、事前質問に対する回答はもらえると思う。
- 小ヶ谷会長 前回、図書館の議論もあったが、対応するのは教育委員会事務局生涯学習推進課になるか。
- 三田村課長補佐 指針に基づく施策の推進状況調査の回答課は生涯学習推進課だが、回答は図書館で作成しているようなので、ヒアリングとなったら図書館の職員が対応するかもしれない。
- 小ヶ谷会長 図書館は取り上げたい。

- 本田委員 面白いと思う。
- 小ヶ谷会長 前回の議論にもあったように、拠点になれる場所であり、多言語という視点もある。図書館の多文化共生に関わる取組や計画、利用者の状況などもなどを教えてもらえるとよい。
- 孔委員 先日、中原図書館に行った際に、読み聞かせのコーナーで中国語の絵本の読み聞かせをしている親子がいた。周りの日本人のお母さんたちも興味を持っていた。そうした場もいいと思う。
- 小ヶ谷会長 横浜市鶴見区の国際教室もある学校の図書館では、フィリピン語と英語が併記されている絵本なども置いてあった。ルーツのある子どもが借りて読んだりするので、多言語図書はアイデンティティを大事にするという意味でも大事だと思う。
- 本田委員 読み聞かせはいいと思う。そこで子どもが異文化の子どもと友達になる可能性もある。相模原市に住んでいるのだが、公園を観察してみても、近頃は変わってきていて、ネパール系かインド系らしい子でクリケットをやっていた。お父さんが教えていた。
- 大西委員 私も図書館はいいと思う。学校と連携すれば、調べ学習で自分のルーツを深めてみようとか、多文化共生についてなどもあるだろうし、一度話を聞いてみればと思う。
- 南委員 区役所において、ある程度対応しているはずだが、本当にできているのか、ということは聞いてみたい気がする。例えば、外国籍の高齢者が区役所に相談に来た時、介護だとか何かお困りのことに対して、外国籍の方でも日本人と同じく地区担当が対応して、通訳が必要であれば通訳も入れて保健師が対応するはずである。だが、言葉の壁などで何か支障があったり、行き届かなかったりということがあるのかは、はっきりとはわからない。また、個人個人でどんな制度が適用されていて、どんな支払いをしてと言ったことまで現場が理解して対応していると言えるのかは気になる。
- 小ヶ谷会長 入居差別の件は前期でも取り上げたが、今回の報告にある動画作成がいい動きだと思う。次年度でも、多くの人にアプローチできる動画作成に至った理由などを伺えたらいいと思う。制度や協議会ができて、現実問題として入居差別がなくなっていないことが、昨年度の後半の大きなテーマだったので、その点も忘れずにいたい。
- 大西委員 居住支援は、相手方は民間の事業者なので、市からの働き掛けが困難という議論をしたと思う。引き続き審議したいと思う。防災関係などはどうか。
- 小ヶ谷会長 以前、防災についてもヒアリングをしたことがあった。どこの区だったか。
- 高橋専門調査員 宮前区まちづくり協議会のなかで防災も話があった。
- 南委員 宮前区の防災訓練のときに、外国人向けウェルカムパックを作っているまちづくり協議会の方たちが中心となって区の防災訓練のときに外国人向け防災体験ツアーをやり、起震車に乗ったりした。また宮前区では海外大学の学生寮ができて、多くの留学生がいるので、何らか地域で連携したいという話がある。
- 本田委員 防災は地域特性によって大きく違う。がけ崩れ、土砂災害といった表現、説明が難解だったりする。〈やさしい日本語〉が重要になる。
- 小ヶ谷会長 国際交流センターでも防災訓練をしていると聞いた。ここまでに出了課題としては、介護を含めた外国人の高齢化、医療関係、図書館の多文化共生の取組、住居と防災となる。
- 大西委員 多文化共生プラザについては、1、2年後にもう一度話を聞いてみたい。
- 小ヶ谷会長 テーマに対応する所管課について、事務局としてはどうか。
- 三田村課長補佐 介護については、区役所の所管でどのような窓口対応をしているかという観点か、健康福祉局の総合リハビリテーション推進センターで介護事業者向けに多文化の研修等を実施するという事業もある。第14期代表者会議からも事業者向けに多文化の研修をしてほ

しいという提言があり、所管課のほうで、多文化高齢者ネットかながわという、県内で外国人の高齢者問題に関して活動している団体に講師を依頼して今年度中に研修を実施する方向である。区役所での外国人高齢者の対応をどう把握できるかは、現時点ではわからない。

○高橋専門調査員 区役所の窓口でどう対応しているのかと、実際のサービスを受けるところでは事業者がどう対応しているのかということなので、誰に聞くかは異なってくる。青丘社のやっている高齢者事業の「ほっとライン」のケアマネージャーさんに話を聞いたことがある。ここだと、現場レベルで外国人高齢者に対してどのような対応をしているのか、聞けるかもしれない。「ほっとライン」のケアマネージャーさんも、多文化高齢者ネットかながわのメンバーとして活動している。

○小ヶ谷会長 現場レベルの状況を知って検証するのか、事業者さん向けの啓発や情報提要について知りたいのか、というどちらになるか。関心事項としては、現場の状況の気がするが、「ほっとライン」に話を聞ければ、外国人の高齢化が進んでいる桜本地域の方が中心だと思うので、いいと思う。

○高橋専門調査員 「ほっとライン」は、大変忙しいと思う。多文化高齢者ネットかながわならメンバーが多いから対応できるかもしれない。多文化高齢者ネットかながわは、もともとはユッカの会という団体が中心となり、社会福祉の方たちのネットワークになっている。〈やさしい日本語〉や多文化理解の研修などを手掛けている。

○小ヶ谷会長 いいと思う。タイミングはお任せするので、多文化高齢者ネットかながわのヒアリングで1つのテーマとする。あとは、医療と図書館。

○三田村課長補佐 高齢者については、市役所の所管というより多文化高齢者ネットかながわに聞いてみるとし、もう一つは図書館に依頼するということになる。医療については、川崎病院の外国人患者受入れの認証取得の件ということでよいか。病院局が所管となる。

○小ヶ谷会長 住居の居住支援の動画の話はまた完成後ということで様子を見る。

○高橋専門調査員 病院局には、川崎病院の JMIP 認諾取得の件を聞くということでもいいか。外国人も皆が市立病院に行くわけではなく、近所のクリニックで受診することが多い。しかし、行政としてできるのは、市の病院でどんな体制整備をしていくのかという話になる。

○大西委員 川崎病院の所管局でいいのでないか。地域の病院と連携しているかもしれない。

○高橋専門調査員 医療通訳については、神奈川県で市立病院は事前予約で派遣が可能となっている。また、医療通訳をしている MIC かながわは、独自にも、市を通さず協定を結んでいるところにも派遣できる。

○小ヶ谷会長 昨年度の新しい取組として認定を受けたことは事実なので、そこにヒアリングをお願いできるならいいではないか。

○三田村課長補佐 各所管局と多文化高齢者ネットかながわとに、それぞれ調整していく。

○小ヶ谷会長 ではよろしく願います。

6 その他

○小ヶ谷会長 その他として、事務局から地域日本語教育の推進に関する部会の説明をお願いする。

○吉留担当課長 (資料4に基づき説明)

○小ヶ谷会長 ニーズ調査の話があるが、これは、前年度に実施した日本語の調査とは異なるものなのか。

- 吉留担当課長 昨年度の調査は地域日本語教育推進方針を策定するに当たり、日本語を教える側への調査だったが、今回は日本語を学ぶ側に対する調査となる。
- 小ヶ谷会長 ほかに質問はないか。無ければ事務局から連絡事項をお願いする。
- 三田村課長補佐 本日決まった審議テーマ3つについて、それぞれいつ取り上げられるか、スケジュール調整を関係者と行い、次回決まった内容を報告します。
- 小ヶ谷会長 では、これで第3期第2回の多文化共生社会推進協議会を閉会とする。

7 閉会

以上